

■第 10 回 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会 会議録■

日時 : 平成 21 年 2 月 24 日（火）18 時～20 時
場所 : 武蔵野総合体育館大会議室
出席者 : 委員 本村清人、河上一雄、守屋るり子、大町洋、赤萩恵子、和田明子、後藤信義、島本
康子、古矢武士、茨木信、萱場和裕
欠席委員 : 本郷伸一
: 庁内ワーキングチーム 大久保宏、関根和美
事務局 : 担当課職員 西川和延（生涯学習スポーツ課副参事）、茂木孝雄（生涯学習スポーツ課
スポーツ振興係長）
: コンサルタント 黒崎晋司・木藤直隆（株式会社 地域計画建築研究所）
傍聴人 : 1 人

－ 議事要旨 －

□開会

□資料確認

本日の次第、「資料 1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）素案」「第 9 回策定委員会会議録」

□会長挨拶

委員長 : 早いものでこの策定委員会も 10 回目をむかえ、最終回となった。本日は、前回委員の皆さまからいただいたご意見を踏まえて修正された「資料 1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）素案」について全体を通しての確認をお願いしたい。ご協力のほどお願いしたい。

□議事

(1) 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）素案について（資料 1）

事務局 : 「資料 1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）素案」について、主に第 9 回策定委員会でいただいたご意見を踏まえて修正した点、新たに追加した箇所も含め、全体を通して説明した。

- ・全体を通した章の構成の確認とともに、新たに章ごとなどに分かりやすくなるようにノ
ンブルを加えた。
- ・第 1 章「スポーツ振興における現状と課題」では、主に前回いただいたご意見などを踏
まえて文言の修正をおこなった。
- ・第 2 章「武蔵野市におけるスポーツのあり方」では、「1 スポーツの定義」や「3 基
本理念」で文言や文章の構成について修正をおこなった。また、武蔵野らしさについて、
前回のご意見を踏まえて分かりやすい図とし、タイトルも「武蔵野らしさを踏まえた計
画の策定」に修正した。
- ・第 3 章「基本方針」と第 4 章「実現化方策」では、基本施策の名称について変更した部
分、本文の文言を修正したもの、既存事業に追加したものなどを説明した。具体的には、
基本方針 3「既存資源の有効活用」のなかで「総合型地域スポーツクラブ」についての

説明箇所や基本施策「地域におけるスポーツの担い手づくりの充実」の本文の内容の修正とともに、基本方針 4「ライフスタイルの構築」の基本施策のうち「スポーツをつうじた元気な地域づくり」から「安全・安心な地域づくり」に他の基本施策との整理から名称の変更をおこなっていることなどが挙げられる。

委員長：事務局から数日前に委員の方あてにも「資料 1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）素案」が送られており、事前に委員の方からいただいたご意見なども本日の資料には反映されていることが分かる。本日は、どこの箇所からでも良いのでお気づきの部分がありましたらご意見をいただきたい。

委員：56 ページの基本施策は、今回「スポーツをつうじた元気な地域づくり」から「安全・安心な地域づくり」に変更されているが、ここは、基本方針の最後の基本施策であり重要だと思う。また、スポーツ振興に関する施策として「安全・安心な地域づくり」だけでは弱いのではないか。「元気」とか「健康」という言葉が入ったほうが良いと思う。

委員長：「安全・安心で元気な地域づくり」としてはどうか。

委員：異議なし。

委員：46 ページの基本施策「地域におけるスポーツの担い手づくりの充実」について、「新たに考えられる事業」の「（仮称）スポーツ人材登録事業」では、「スポーツコーディネーター」という言葉を使っている。ここで言いたいことは、もっと広く誰でもスポーツのボランティアやサポーター、指導員などになれるということだと思う。もう少し、具体的に誰でもになれるということについて意味を噛み砕いて文章にしたほうが良いと思う。

委員：41 ページの「総合型地域スポーツクラブ」の説明のところで、主な特徴として、「多世代の人が多様な志向に基づき多種目のスポーツを受益者負担で行うことがあげられます。」とあるが、この文章を読んだ人にとっては文化面が入っていないという印象になってしまわないか。例えば、コーラスなどの音楽会や芸術活動といった文化面も「総合型地域スポーツクラブ」に入るのではないか。

委員長：それは、運用の部分として考えれば良いと思う。スポーツだけに限らず音楽や書道などもあって「総合型地域スポーツクラブ」ということであり、「多様な志向」の部分にあたると思う。

委員：4 ページの「第 1 章 スポーツ振興における現状と課題」の「2 年代に応じたスポーツのニーズ」のなかで、「子どもの頃からスポーツに親しむことは」と始まる文章が、「生涯を通じてスポーツを楽しむことが大切である」という文章で終わっているが、今の文章では分かりにくいと思う。

委員長：ここは文章の整理が必要だと思う。

委員：全体的に言えることだが、「第 3 章 基本方針」と「第 4 章 実現化方策」の「既存の事業」の事業概要欄の書きぶりを統一したほうが良いと思う。また、注釈のあるところは本文でも何かルビをふるなど工夫したほうが良いと思う。

文章のなかで「子どもたち」と「子ども達」という記述がある。市のなかで統一した表記の仕方があると思うので整理していただきたい。

事務局：ご指摘いただいた点については、整理させていただきたい。

委員：8 ページの「第1章 スポーツ振興における現状と課題」の「5 様々な形でスポーツにかかわる人」で用いているグラフは、もう少し見やすいように工夫していただきたい。

事務局：平成 19 年度、市で実施したスポーツ市民意識調査のグラフを載せているが、実際にこの状態では見えづらいということを何度かご指摘いただいているので、今後、製本していく段階でもう一度入力して改めてグラフをつくる予定でいる。結果的には、ある程度小さい字になると思うが、現状よりも見やすくなると思う。

委員長：改めてデータを入力してグラフをつくるとなると大変なことだと思うが、がんばっていただきたい。

委員：8 ページのグラフで言えば、少しグラフの項目を減らしたりして、注釈で「一部の項目は統計から抜いてあります」と明記しておけば良いのではないか。そのほうが見やすくなると思う。

委員：これは、市民意識調査の結果であるので、データとしてはすべて載せていかないとデータの信憑性が問われるので、難しいと思う。

委員長：調査項目や質問項目が、平成 19 年度に実施したスポーツ市民意識調査と違ってくると読み取りにくくなるので、元々のデータから抜いてしまうことはできないと思う。

委員長：その他にご意見なければ、「資料 1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）素案」の修正について、事務局のほうで何かあればお願いしたい。

事務局：基本的には、ご指摘いただいた部分は修正していきたいと考えている。用語の使い方も確認しつつ対応していきたい。また、グラフや図については、データでなく完成品しか持っていないので、もう一度データから入力してグラフをつくっていきたいと考えている。

また、残りの時間でキャッチフレーズについて、現在 5 つの案が出されているが、絞りこみをしていただければと考えている。

委員長：ある程度の絞りこみということなので、傾向だけでも事務局として把握できるように、各自 2 票で別々の案に挙手をお願いしたいと思うがどうか。

委員：異議なし。

事務局：投票の結果、「人も地域も元気に！」（4 票）、「おしゃれにスポーツ！元気いっぱい！」（0 票）、「元気 すこやか はつらつ 笑顔」（6 票）、「市民 まるごと スポーツ」（4 票）、「おしゃれにスポーツ！人も地域も元気に！」（3 票）の結果となった。

委員長：キャッチフレーズについては、傾向を参考としていただきたい。

委員長：以上で、「資料 1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）素案」についての検討を終わらせていただきたい。ありがとうございました。

（2）各委員からの感想と今後の抱負

委員長：最後に、委員の皆さまから感想など何う時間を設けたい。宜しくをお願いしたい。

委員：体育指導員を代表して参加させていただいた。当初は何をどうしていくのかつかみかねていたが、今回、このように計画がまとまってきて、武蔵野市はたくさんの事業が市民に対して多方面でおこなわれていて、本当に豊かなまちであるということを改めて感じた。こ

のスポーツ振興計画がどこまで実践していけるのか見届けながら、スポーツをずっと楽しんでいきたい。

委員：今回参加して、スポーツに対する考え方が非常に幅広いということを感じた。時代とともにいろいろな面が変わってきているということも考えさせられた。このスポーツ振興計画ができあがり、これからいかに広報していくかということと、行政のいろいろな部署がかかわっているので、いかに横のつながりをもって一貫して進められるかが重要なことだと思う。この計画を行政だけでなく、市民が実践していくことが大事だと思う。まずは、最初の5年間、それぞれの立場で実践していくことが大事である。

委員：今回参加して、武蔵野市のスポーツの仕組みがどのようになっているのか、これからどのような方向に向かおうとしているのか大変よく分かった。私自身、50年以上も武蔵野市に住んでいて、スポーツのことは知らなかったということがよく分かった。たぶん、これまであまり興味がなかったか、知る必要性もなかったということだと思う。私も含め、会社にお勤めの人などよく分からないという方が大多数なのではないかと思うので、そのような方たちへの興味関心をいかに啓発していくことができるかが大事だと思う。

委員：PTAの立場から、子どもを育てる母親の立場として、またスポーツに接する機会が少ない世代として参加させていただいた。今回参加して、市ではこれまでもいろいろなアプローチをしていただいていたことがよく分かった。今回の計画のなかで「自宅でできるスポーツ」という、スポーツになかなか接する機会の少ない人たちに対する施策を盛り込むことができたのは良かったと思う。そこから、まずは、少しでも自分ができることから始めて少しづつでもスポーツに接していければと思う。

委員：これまでも市でスポーツの事業にいろいろ取り組んでいただいていることは知っていた。ただ、同じような事業もあると感じていたが、今回、庁内のワーキングチームを立ち上げて話し合っていたことで、すべて、縦と横の関係が分かったように思う。体系図もつくっていただき、自分が思っていた以上に多くの事業があることも分かった。個人的には、4月からワンデーレッスンで指導することになり、今回の経験を踏まえて幅広く初心者の方にスポーツを楽しんでもらえるようがんばりたい。

委員：一般的な計画では、大きなことだけを語る計画が多いと思うが、今回の計画のように事業名まで細かく網羅している計画書はなかなか無いと思う。「既存の事業」「新たに考えられる事業」「重点施策」なども整理できて良かったと思う。個人的には、定年のまじかで初めてスポーツに出会った。これをきっかけに、障害者や高齢者など閉じこもりがちでスポーツから離れていた方にもこの計画書を読んでいただき、少しでも広がって、スポーツと巡り会うきっかけになっていただければと思う。

委員：地元のクラブの立場で参加させていただいた。委員会のなかでは、市内の施設見学をさせていただき、いろいろな意見なども言わせていただいた。ありがとうございました。個人的には、仕事の都合で異動などしたこともあるが、これからも武蔵野市のスポーツ振興の発展のためにがんばりたいと考えている。先日、仕事の関係で宮崎のキャンプに行ってきた。ちょうど「WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）」のキャンプの横で合宿をしていた。「WBC」をみると平日にもかかわらず4万人というたくさんの人が訪れており、改めてスポーツがお祭りであることがよく理解できた。なぜ、そこまで盛り上がっ

ているのかといえ、宮崎には、素晴らしい施設はあるが、「観るスポーツ（観るソフト）」や実際におこなう（取り組むソフト）が無いということではないかと思う。ただ、宮崎の盛り上がりを見ているとやはりスポーツは良いなと感じることができた。武蔵野市に話を戻すと、スポーツをする場所をどのように確保していくかが課題でもあるので、細切れになっている部分をどう上手にリンクしていけるのか、公園や学校、グラウンドなど実際にどのように有効活用できるのかアイデアを考えていきたいと思う。

委員：武蔵野市は、他の自治体よりも市とスポーツ振興事業団、体育協会が三身一体で取り組んでおり、そのなかで今回の計画がつくられるということだったように思う。今後、さらに、進展していくことを期待したい。この計画そのものは、おそらく「人間が豊かで健康的な生活を営むこと」がねらいだと思う。これを段階的に実現化していくことが大切であり、実現化していきたい。スポーツ振興事業団としてもがんばっていききたい。

委員：委員の皆さまには長期間にわたりご検討いただき本当にありがとうございました。行政としても、情報提供の充実をさらに進めるとともに、庁内の連携を進めながら、計画の実現を図っていききたい。

副委員長：副委員長の立場としては、委員会の調整役にまわらなければならない立場であったかもしれないが、議論の活性化となるよういろいろな意見を言わせていただいた。今回、このスポーツ振興計画がまとまったことは非常に素晴らしいと思う。

東京都のスポーツ振興基本計画では数値目標が出されているが、今回の計画には、数値目標は出てこない。逆に、数値目標がないからこそ、具体的な施策のなかでどのように活かすか、計画の実現化を図っていくことが大切であると思う。このスポーツ振興計画で基本方向が出たので、これをどのように具体化していくのか、みんながスポーツを楽しむことができるように実現化していければ良いと思う。

委員長：武蔵野市の在住、在勤でもない者に委員長の話がきたので少し戸惑ったが、今回務めさせていただいた。委員の皆さまの話にもあったように、プランニングはできた、あとは実施するだけであり、「人」「物」「お金」ということになると思うが、私としては、人が大事だと考えている。例えば、体育指導員は、これからは技術的な指導だけでなく、企画立案・運営など含めてコーディネートしていけるようになることや、地域在住の方々がどれだけ動けてどうかかわることができるかが大事だと思う。その辺りの普及啓発を進めていけばこの計画の内容も生きてくると思う。今回の計画では、むしろ、ソフトのことに焦点化した施策を打ち出しており面白いと思う。これからは、人の動き、今まであったものをいかにソフトとして効率よく動かしていくのかということだと思う。そういった面からも市でおこなわれてきたいろいろな事業が改めてコラボレーション（再構成）できたように思う。非常に取り組みやすくなったのではないかな。先ほども委員の感想にあったが、縦と横のつながりが分かったという感想をいただいた。そこがポイントだったと思う。そのような感想をいただいたことが嬉しくあるとともに、事務局が非常にご尽力された証だと思う。あとは、人のに関することを具体化していきたい。ありがとうございました。これで終了とさせていただきたい。

(3) その他

事務局：昨年の 7 月に第 1 回から始まり、かなり厳しいスケジュールのなか、ここまで 10 回の委員会を開催し、スポーツ振興計画の策定に際して皆さまにはご尽力いただきありがとうございました。本日、策定委員会の計画案を取りまとめていただきました。今後の日程については、策定委員会の計画案を教育長に報告し、その後、教育委員会に諮り、承認を受け正式に市の計画となるような流れになります。おそらく、完全な製本された形になるのは、5 月頃になると思われます。市のほうでは、3 月 9 日（月）の午後 4 時に、策定委員会としての報告を教育長に報告する形としたいと考えている。基本的に委員長にご同席いただき、委員の皆さまにもご一緒いただければ幸いです。

事務局：事務局としては、今回の計画は、長期計画や上位計画とは違い、行政始め市民の皆さまも含めたスポーツをするための実行計画であると考えています。今回の計画に基づいて、市としてのスポーツ行政のあり方を再構築しながら進めていきたいと考えています。また、庁内の体制もこれに終わらず、恒常的に連携を図り、年に 1 回くらい進捗状況などを確認し評価をするような仕組みづくりも進めながら、より実効性をもった形で取り組んでいきたいと考えている。

計画期間の 10 年間のうち、東京国体までの最初の 5 年を半期として見直しも含めて検討したいと考えています。

今後とも皆さま方のご意見をいただきながら、より良い方向に進めさせていただきたいと思っています。ご協力いただきましてありがとうございました。

完成した暁には、市民の皆さまに知っていただくことが第一歩だと思っておりますので、いろいろな形で市民の皆さまにお伝えしてスポーツを広めていく場を設けていきたいと思っております。

これをもちまして、武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会すべて終了いたしましたので、終わりとさせていただきます。

長い間、本当にありがとうございました。

以上